

マナマコ

写真2

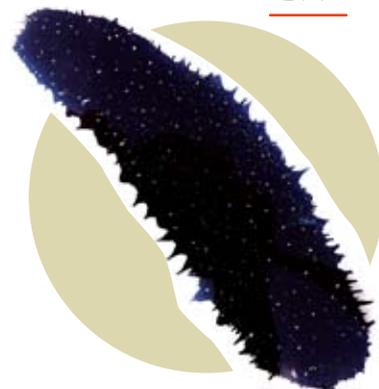


写真1

写真3 管足

「アマモ場と砂浜」水槽には、大きさ30cmほどのマナマコを展示しています（写真1）。これはマナマコとしては最大級の大きさです。マナマコには体色の異なる「赤タイプ」・「青緑タイプ（展示個体）・黒タイプ（写真2）」が知られていますが、赤タイプはマナマコではなく別の種とされる場合があります。マナマコの腹側を見ると、先端が吸盤状の「管足（かんそく）」が多数のびているのがわかります（写真3）。この管足は、海底をはって移動したり、岩などに吸いついて体を固定する時などに使われ、呼吸を助ける働きもあります。次に、マナマコは口のまわりの触手（写真4）を使ってエサを集めます。エサは砂にまじった有機物などですが、触手先端の枝分かれた部分に砂粒をくっつけ、口へ運びます。そして消化管で栄養となるものだけが吸収され、いらない砂粒は肛門から捨てられます。しか



写真4 触手

し、夏に水温が高くなるとエサを食べなくなり、岩の隙間などでじっと動かず「夏眠」することが知られています。

マナマコは、生で食べる以外に煮て干した「イリコ」や内臓の塩辛「コノワタ」が有名で、様々に利用されることから、重要な水産資源として保護されています。

